

厳島神社：雅楽

雅楽は日本の伝統音楽で、主に宮廷や社寺で演奏されるものです。その起源は6世紀にさかのぼり、日本古来の音楽は中国大陆や朝鮮半島の宴会音楽などの影響を受けました。雅楽は平安時代（794～1185年）に洗練され宮廷儀礼で盛んに奏でられ、貴族にも愛好されました。宮島には平安時代末期に伝えられました。宮中の重要人物であった平清盛（1118～1181年）が雅楽、舞楽、京都の貴族文化の他の要素を島に紹介したのです。雅楽は今では、奉奏が定期的に行われる厳島神社では一般の人々も聴くことができます。

ここで展示されている楽器は、雅楽の長くて輝かしい歴史を物語っています。貴族や演奏者によって神社に贈られた楽器の中には、何百年も前に実際に演奏されたものもあります。一方、純然たる装飾品もあります。後者には、雅楽で一般的な竹笛を型にした、7穴の銅笛があります。それに対し、近くに展示されている琵琶には使われた形跡が明らかにあります。興味深い別のものは笙です。フリーリード類に属する楽器で、口にあてて演奏します。17本の竹でできています。ここにある黒漆の笙には桜があしらわれており、高倉上皇（1161～1181年）が1180年に宮島を訪れた際に贈ったものと考えられています。